

最終評価シート

最終評価（表紙）

添田町 歴史的風致維持向上計画(平成26年6月23日認定) 最終評価(平成26年度～令和5年度)

■ 統括シート(様式1)	1
■ 方針別シート(様式2)	3
I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	
II 歴史的建造物の保存・活用の推進	
III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全	
IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進	
■ 波及効果別シート(様式3).....	7
i 観光入込客数の増加	
ii 歴史的風致に関する意識啓発	
iii 歴史的風致を守り活かす担い手の活動の活性化	
■ 代表的な事業の質シート(様式4).....	10
A 英彦山神宮参道保存整備事業、英彦山神宮参道修景整備事業	
B 中島家住宅保存修理事業、中島家住宅活用整備事業	
■ 歴史的風致別シート(様式5).....	12
1 英彦山神宮にまつわる歴史的風致	
2 添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致	
3 英彦山水系流域と伝統芸能にみる歴史的風致	
4 彦山踊りにみる歴史的風致	
5 英彦山詣でと英彦山権現講にみる歴史的風致	
6 高住神社にまつわる歴史的風致	
■ 庁内体制シート(様式6)	
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	
■ 全体の課題・対応シート(様式8)	

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	英彦山神宮にまつわる歴史的風致	I・II・III・IV	
2	添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致	I・II・III・IV	
3	英彦山水系流域と伝統芸能にみる歴史的風致	I・IV	
4	彦山踊りにみる歴史的風致	I・II・III・IV	
5	英彦山詣でと英彦山権現講にみる歴史的風致	I・II・III・IV	
6	高住神社にまつわる歴史的風致	IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		
II	歴史的建造物の保存・活用の推進		
III	歴史的建造物を取り巻く環境の保全		
IV	歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光入込客数の増加		
ii	歴史的風致に関する意識啓発		
iii	歴史的風致を守り活かす担い手の活動の活性化		
④ 代表的な事業			
	取組み	事業の種別	
A	英彦山神宮参道保存整備事業、 英彦山神宮参道修景整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	中島家住宅保存修理事業、 中島家住宅活用整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- 本町では、各集落に受け継がれている祭礼や芸能等の歴史と伝統ある活動は多く残されているものの、その祭り行事について十分な把握がなされていない。また、地域住民の活動の継承に対する使命感やボランティア精神に頼る部分が大きく、コミュニティ意識の希薄化や担い手の減少等により、活動の継承が危惧されている。
- 祭礼や伝統芸能等の担い手である地域住民の活動継承に対する自負や使命感を再燃させるため、講演会等のイベント開催により、これらの活動への積極的な参加を促し、地域の結びつきの再構築を図る。
- 将来の担い手の育成にあたっては、地域住民や保護団体への支援を実施することにより、後継者育成を図る。特に子どもについて、自分が住む地区や町の歴史、祭礼等につながる機会を創出することにより、将来の担い手や伝承者の育成を図る。
- まちづくりに係る自主的な団体や、本計画の一役を担う担い手等の育成を図る。
- 明らかにされていない活動の実態把握に努め、特に優れた活動は町指定文化財とする。

② 事業・取組みの進捗

	項目	推移	計画の位置付	年度
1	まちづくり団体設立支援事業	英彦山門前町同好会の設立(H28) 重文・中島家住宅推進協議会の設立(H29)	あり	H26 ～R5
2	民俗芸能文化財等伝承支援事業、 まちづくり団体育成支援事業	民俗芸能の衣装等の制作等、活動周知(3団体) 設立まちづくり団体の活動・周知支援(2団体)	あり	H26 ～R5
3	児童・生徒に対する意識向上推進 事業	テキスト作製、町内小学校(5校)配布(H27) テキストを活用した授業(H28～R5)	あり	H27 ～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

○まちづくり団体設立支援事業

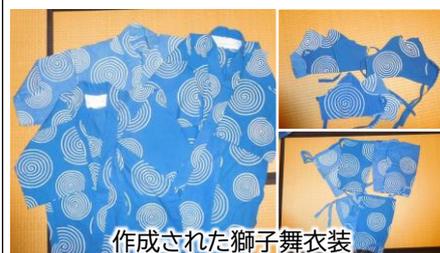
- 歴史的風致を構成する建造物や環境、民俗芸能等をまちづくりに活用するため、重点区域である英彦山区域、添田本町等区域ごとに、まちづくりを担う団体設立に向けた地域関係者の活動を支援した。
- 勉強会の開催などを通じて、英彦山区域では「英彦山門前町同好会」、添田本町等区域では「重文・中島家住宅推進協議会」が設立された。

○民俗芸能文化財等伝承支援事業

- 民俗芸能の活動や後継者支援を目的に、獅子舞衣装購入や太鼓の修理とともに後継者募集のポスター制作等を支援した。
- 設立されたまちづくり団体の活動の情報発信としてホームページ作成の支援、団体企画のイベント、清掃活動等を支援した。

○児童・生徒に対する意識向上推進事業

- 平成27年に作成した歴史テキスト等も活用した子供達への郷土愛や地域の伝統芸能への理解を促すため、学芸員が各小学校での「出前講座」に継続的に取り組んでいる。
- 修理事業が進む中島家住宅での現地見学や解説、英彦山修験道館での解説など、本物と子供たちの触れ合う機会を醸成した。



④ 自己評価

伝統芸能を担う方々の活動継承のため、芸能に用いる衣装制作等への支援を行うことで、活動継続の環境を整える一助を担うことができた。歴史や歴史文化遺産のまちづくりでの活用に向け、地域に根差した活動を行うためのまちづくり団体の設立を行うことにより、新しい楽しみが醸成され、町民や来訪者の関心を高めることができた。



⑤ 今後の対応

まちづくり団体による活動は自立に向けて歩みを始めたばかりであり、今後も自立を念頭においた活動を支援することで、歴史や伝統を反映した活動への関心を高める必要がある。新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした伝統芸能等の活動の中止により、活動継続の機運低下がみられる中、従来からの課題であるコミュニティ意識の希薄化、担い手減少等も踏まえ、活動を披露する場づくりや講演会等のイベント開催を通じて活動の活性化を図る必要がある。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
方針	Ⅱ 歴史的建造物の保存・活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- 本町では、指定文化財として保存措置が講じられている歴史的建造物の経年劣化の進行、日常的な維持管理が行き届かず損傷が進行している。また、指定文化財以外の歴史的建造物は年々減少し、今日残されている建造物も損傷が進行し、歴史的風致が失われつつある。
- 指定文化財の建造物は、文化財保護法等に基づき、今後も保存・活用を図る。損傷が進行している指定文化財については、文化庁等の指導を仰ぎながら、適切な修理を行い保存するとともに、積極的な活用を図る。
- 指定文化財以外の建造物は、本計画に基づく歴史的風致形成建造物に指定するとともに、添田町文化財保護条例に基づく文化財の指定を検討し、今後の保存・活用を図る。また、添田公園は、岩石城跡が立地する岩石山麓に整備された公園として、散策路の整備を図る。特に、英彦山に点在する修験道にまつわる遺跡は、重要な文化財として文化財保護法に基づく堅実な保存・活用を図る。
- 損傷が進行しているこれらの建造物は、所有者等の修理への支援策を講じることで所有者の負担を軽減して保全を図り、所有者や周辺住民等と協働により維持管理や活用を検討する。

② 事業・取組みの進捗

	項目	推移	計画の位置付	年度
1	中島家住宅保存修理事業	中島家住宅保存活用計画の策定(H27) 調査・設計・工事(H30～R3)	あり	H27 ～R3
2	英彦山の国史跡の指定、英彦山庭園の国名勝の指定の取組み	英彦山の調査、報告書の刊行(H22～H28) 「英彦山」の国史跡の指定(H29) 英彦山の庭園調査、報告書の刊行 (H28～H31) 「英彦山庭園」の国名勝の指定(R2)	あり	H27 ～R1
3	英彦山神宮による上宮修復に係る支援	基本設計・実施設計の実施(R2・R3) 保存整備工事の実施(R4・R5)	あり	R2 ～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

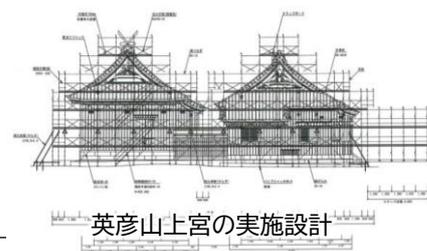
- 中島家住宅保存修理事業
 - 計画的な保存を図るため、中島家住宅保存活用計画を策定した。また、経年劣化に伴う損傷の進行に加え、地盤沈下とそれに伴う建物への影響、耐震性能の不足等を踏まえ、半解体を伴う保存修理工事を行った。
- 英彦山の国史跡の指定、英彦山庭園の国名勝の指定の取組み
 - 英彦山内に存在する社殿や修験窟、宿坊、遺跡等の後世への継承に向け、国の史跡指定を目指した総合調査を進め、「英彦山総合調査報告書」を刊行した。文化財的価値が確認でき、「英彦山」は国史跡に指定された。
 - 国名勝「旧亀石坊庭園」以外の宿坊庭園の後世への継承に向け、国の名勝指定を目指した庭園調査を進め、「英彦山庭園調査報告書」を刊行した。文化財的価値が確認でき、「旧亀石坊庭園」に6つの庭園を追加し、名称を「英彦山庭園」に変更し、国名勝に指定された。
- 英彦山神宮による上宮修復に係る支援
 - 英彦山神宮は、経年劣化や長年の風雨等による損傷が進む上宮の被害状況把握調査、耐震診断、基本設計・実施設計、整備に取り組んでおり、町は助言とともに経費の一部の支援を行った。



中島家住宅の整備の様子



専門家による英彦山の調査の様子



英彦山上宮の実施設計

④ 自己評価

歴史的風致を構成する重要な歴史的建造物である中島家住宅及び英彦山神宮上宮について、その保全整備に着手し、中島家住宅は公開活用が可能となり、町外からの来訪者も見られるようになった。
英彦山においては、貴重な歴史的建造物及びその環境を保全すべく、文化財保護法に基づく文化財指定がなされ、保存措置を講じることができた。

⑤ 今後の対応

中島家住宅は庭園整備を通じた更なる環境の維持・向上、英彦山神宮上宮は保存整備が未完了であることから引き続き保存整備を推進する。文化財等の指定されていない歴史的建造物は所有者の理解・協力を得ながら、歴史的風致形成建造物指定等を通じた保存を図る。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
方針	Ⅲ 歴史的建造物を取り巻く環境の保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- 本町では、歴史的建造物の周辺に風情を損ねる工作物や配慮のない近代的な整備が見られるなど、景観が損なわれていた。また、草刈りなどの日常的な維持管理が行き届かず、歴史的風致が損ねられていた。
- 英彦山神宮門前町における近代的な造成や、添田本町における伝統様式でない住宅等の歴史的風致を阻害している環境は、歴史的風致を尊重した整備を誘導するため、景観行政団体へ移行し、計画期間内における景観法を活用した景観計画の策定を検討する。
- 英彦山神宮門前町では、歴史的風致を損ねている上水用パイプ等の要素の改善を行うことで、参道の趣の保全を図る。また、自然豊かな英彦山では、周囲となじまない施設の景観上の改善や、眺望景観の改善を行うことで、英彦山の風光明媚な景観の保全を図る。
- 歴史的建造物やその周辺環境では、草刈り等の軽微な作業は、住民が主体となって行えるよう活動支援を行う。

② 事業・取組みの進捗

	項目	推移	計画の位置付	年度
1	英彦山神宮参道保存整備事業 ・英彦山神宮参道修景整備事業	測量・設計の実施(H29) 総延長約885mの工事の実施(H30～R5)	あり	H29 ～R5
2	景観計画策定事業	景観行政団体移行に向けた検討(R1～R3) 景観行政団体へ移行(R4) 景観計画策定の検討(R4～5)	あり	R1 ～R5
3	中島家住宅の管理運営事業	地域住民による庭園の草刈実施(H28～R5) 地域住民で組織された団体による管理(R4) 指定管理者による管理(R5)	あり	H28 ～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 英彦山神宮参道保存整備事業・英彦山神宮参道修景整備事業
 - 英彦山神宮銅鳥居から英彦山神宮奉幣殿までの総延長約885mの参道を歴史的風致形成建造物に指定し、石段や石垣等の保存整備に加え、水道パイプの撤去・埋設、ツツジの撤去、消火設備の色彩の調和など、修景整備を実施した。
- 景観計画策定事業
 - 法に基づく良好な景観誘導に向け、景観行政団体へ移行した。歴史的風致にそぐわない建築物や工作物等の景観誘導とともに、樹木の伐採や太陽光発電施設等の景観保全に向け、届出制度を活用した景観誘導策を盛り込んだ景観計画の策定を行った。
- 中島家住宅の管理運営事業(地元清掃&指定管理)
 - 地域住民とともに中島家住宅の整備後の利活用の検討を通じ、整備前の平成28年より庭園をはじめとした草刈を地域住民により取り組まれてきた。令和4年の中島家住宅の日常管理は地域住民で組織した団体が担い、令和5年からは指定管理者によって管理が行われている。



④ 自己評価

英彦山神宮参道の保存及び修景整備により、歴史的風致を醸し出す景観の保全及び質の向上が図られた。また中島家住宅は、地域住民の理解・協力を得ながら、整備完了後の公開活用においては、民間の指定管理による適切な管理とノウハウによる活用が期待できる環境が維持されるようになった。

⑤ 今後の対応

英彦山神宮参道や中島家住宅といった第1期計画で整備が完了した歴史的建造物の環境の維持・向上を図るべく、地域住民等の理解・協力を得ながら、日ごろからの環境維持について持続的に取り組む必要がある。令和6年4月より運用開始した添田町景観計画に基づき、歴史的風致にそぐわない建築行為等の景観誘導により、堅実に景観の質の向上を図る必要がある。第1期計画で事業未着手であったスロープカー花駅については、拠点施設として景観の質の向上に向けた事業を推進する必要がある。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
方針	Ⅳ 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

- 本町では、歴史的建造物等を紹介する案内板・誘導サイン、説明板が不足・劣化し、観光マップ等の歴史的風致に関する情報を発信する媒体が少なく、認識の低下を招いていた。また、英彦山門前町では、情報発信する各施設が孤立し、周遊路として連動せず、効果的に発信できていなかった。
- 誘導サイン等の公共サインは、歴史的風致を醸し出す景観に配慮し、周遊路の一体感を生み出すデザイン方針を設定し、説明板や誘導サイン等の設置を進める。また、観光マップ等の作成を行うとともに、効果的に情報を発信するため、添田駅や英彦山修験道館等の人が集まる場所において情報発信を行う。
- 歴史的風致の認識を高めるための取組みは、情報発信のための媒体を作成するとともに、歴史的建造物や交通結節点等での情報発信、歴史文化遺産の保存・活用に係るまちづくり団体との連携による情報発信を行うことで、町内外の人々の歴史的風致の認識を向上させる。
- 英彦山門前町においては、観光や地域住民と来訪者等の交流を促すため、来訪者のニーズに応じた現有公共施設の利活用や各施設の周遊性の向上等の総合的な検討を踏まえ、これに応じた施設整備を行う。

② 事業・取組みの進捗

	項目	推移	計画の位置付	年度
1	案内板等整備事業	ガイドラインに基づく内容を充実化した案内板等31基設置・32基撤去	あり	H26～R5
2	児童・生徒に対する意識向上推進事業	テキスト作製、町内小学校(5校)配布(H27) テキストを活用した授業(H28～R5)	あり	H27～R5
3	「歴まちコラム」の情報発信	町広報への歴史的風致に係る情報の記事化(45回)	なし	H28～R5
4	普及啓発イベント事業の開催	歴史的風致報告会の開催(H26～R元) 歴史講座の開催(延べ開催数:17回)	あり	H26～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 案内板等整備事業
 - 適切な誘導・統一なデザイン・表記を目的とし、『公共サインガイドライン』を策定(平成26年度)し、ガイドラインに基づき31基の案内サインを設置した。老朽化等により機能を果たしていないサイン32基を撤去した。
- 児童・生徒に対する意識向上推進事業
 - 町の歴史や歴史文化遺産を学ぶため、写真や図版を用いた『歴史テキスト』(平成27年度)を制作した。テキストには、地域毎の歴史や伝統芸能等も盛り込むことで、地域への郷土愛醸成を図っている。
 - 作製したテキストは、毎年小学校の授業で活用する他、小学校等の図書館で観覧できるようにし、児童に加え教師からも好評を得ている。
- 「歴まちコラム」の情報発信
 - 町民が目にとりやすい情報発信として、平成28年以降継続的に町広報のコラム欄にて歴史的風致に係る情報を記事化し、計45回発信した。
- 普及啓発イベント事業の開催
 - 本町の歴史や文化財に関する歴史講座や現地見学会、まちづくり講演会など17講座を開催し、歴史文化財に対する認識向上を図った。



④ 自己評価

案内板整備事業により、様々な歴史文化財への誘導が図れたことで、あまり知られていなかったコンテンツの周知にも繋がった。歴史文化財に対する認識は、「歴まちコラム」の掲載、歴史的風致報告や歴史講座の継続により、認識の高まりは徐々に高まりつつある。

⑤ 今後の対応

歴史や文化財への認識は、徐々に高まりつつあり、今後も継続して、より多くの方に対する取組みが必要である。そして、その取り組みにあっては、特に、民俗芸能の担い手・後継者不足が深刻であるため、民俗芸能の体験会など歴史や文化財に触れる機会を創出することにより、認知を高めるだけでなく、民俗芸能に関わるきっかけや後継者育成に繋げる仕掛けの検討も必要である。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
効果	i 観光入込客数の増加		

① 効果の概要

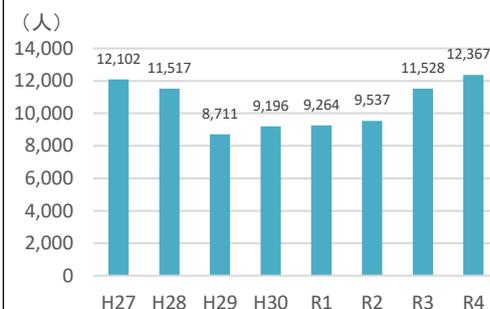
- 英彦山区域内の宿泊施設の利用者数は歴史的風致維持向上計画認定(H26年)以降減少していたが、H30年以降増加に転じ、計画認定時を超える結果となった。

② 関連する取組み・計画

	他の計画・制度	計画への位置付け	年度
1	添田町第6次総合計画	あり	R3～R12
2	添田町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略	なし	R3～R7

③ 効果発現の経緯と成果

- 本計画策定後、英彦山区域内においては英彦山神宮参道の保存整備及び修景整備事業を推進しつつ、計画策定直後に作成した公共サインデザイン指針に基づき案内板や誘導サイン等の整備を進め、英彦山の価値を周知、保存する整備を進めてきた。
- 英彦山内に存在する社殿や修験窟、宿坊、遺跡、庭園等の後世への継承に向け、価値を明確化すべく総合調査を進め、調査報告書を刊行した。同調査報告書を踏まえ、H29年に「英彦山」の国の史跡指定、令和2年に「英彦山庭園」の国の名勝指定がなされた。
- 英彦山の価値を顕在化する調査研究、保存の取組みを推進することと同時に、これらを守り活かす担い手との連携を進めるべく、地元住民等とのまちづくりの勉強会を進め、英彦山門前同好会が平成29年に設立された。設立された同好会による清掃活動などの環境の維持管理、宿坊等を活用したイベント企画の実施などを通じて地域の魅力の向上が図られてきた。
- 従来から活動していた「添田町観光ガイド」は会員数が減少していたものの、養成講座による担い手育成に取り組むことで9名が新規メンバーとして加わり、ガイドだけでなく雇めぐりなどの自主事業も展開されるようになった。
- 英彦山の価値の顕在化、その保存対策、新聞などメディア公告等によるプロモーション活動等とともに、まちづくりを担うプレイヤーの育成に取り組むことで、歴史的風致維持向上計画の認定後減少していた宿泊施設利用者数は、平成30年より増加に転じ、令和4年には平成27年の利用者数を超えた。



英彦山内の宿泊施設利用者数の年別推移



英彦山内の宿泊施設利用者数の月別推移(平成27年～令和4年の平均)

④ 自己評価

- 町主導による英彦山の価値を顕在化する調査研究、保存の取組みを推進することと同時に、これらを守り活かす英彦山門前町同好会等の担い手の活動を支援し、連携を進めることで、英彦山区域内の宿泊利用者数は増加傾向にあり、成果が出ている。
- 一方で、近年のアウトドア志向の高まりや、英彦山区域内へのアウトドア事業者の参入、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う人口密度の低い観光地や山地への人流の移動の影響も想定され、今後のリバウンドも想定した対策が必要である。



観光ガイドの様子

⑤ 今後の対応

- 英彦山門前町同好会等の地域の担い手の活動支援を継続するとともに、宿坊の活用や歴史的風致の情報発信を担う博物館機能の強化など、歴史的風致の維持向上を図る。
- 令和5年春の自然共生型アウトドアパーク「フォレストアドベンチャー添田」の開業、同年夏のJR九州によるバス高速輸送システム「BRTひこぼしライン」の運行開始など、町の観光振興に大きな好影響が期待されるコンテンツの提供が始まるため、これら民間事業者との連携した施策も重要となる。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
効果	ii 歴史的風致に関する意識啓発		
① 効果の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 町民や子供達への歴史的風致の普及啓発による全体的な意識向上に加え、新たな活動団体が設立された。 			
② 関連する取組み・計画			
	他の計画・制度	計画への位置付け	年度
1	添田町第6次総合計画	あり	R3～R12
2	添田町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略	なし	R3～R7
③ 効果発現の経緯と成果			
<ul style="list-style-type: none"> 町の歴史的風致を紹介するテキストを作成し、町内の小学校の社会科や総合学習等において、同テキストを活用した授業が行われている。授業の一部では、学芸員等による紹介を行い、これまで約270名の子供達が学んでいる。子ども達とともに学校の先生にとっても学びの機会となり、将来の底上げになっている。 歴史的風致の普及啓発のため、平成26年より歴史的風致報告会を開催し、これまで全17回、合計約1,200名の方が参加している。英彦山の調査研究者による報告の他、全国的に活動する専門家を招き、客観的な視点から添田町の歴史的風致を学ぶ機会の提供を図っている。 町民への歴史的風致の普及啓発として、町の広報紙における歴まちコラムコーナーを作成し、平成28年以降これまで計45回分の記事を掲載している。計画書よりも目に留まりやすい発信により、町のことを知る機会として好評を頂いている。 歴史的風致維持向上計画策定後、重点区域内の住民等と一緒にまちづくりの検討を深め、二つの団体が設立した。重点区域でもある英彦山においては、自主イベントを開催するなど、徐々に活動の幅が広がってきている。 		 <p>テキストを使った授業の様子</p>  <p>歴史と文化を活かしたまちづくり講演会</p>  <p>まちづくり勉強会の様子</p>  <p>英彦山門前同好会によるイベント（参道マルシエ）</p>	
④ 自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 町民や町外居住者への歴史的風致の普及啓発を進めたことにより、歴史的風致に対する意識は向上しつつある。 小学生への学校教育の機会を継続的に提供することにより、「教科では太宰府天満宮が取り扱われているが、自分たちが住む添田町にも文化財があることを知らせることができた。」と評価され、「児童一人に一冊ずつ配りたい」等のニーズも得られている。 歴史的風致の意識を高めたことで、重点区域の英彦山区域においてまちづくり団体が設立された。しかし、活動は着手されて間もないため、更なる取組みが必要である。 			
⑤ 今後の対応			
<ul style="list-style-type: none"> 歴史的風致の普及啓発を進めてきたが、町民の歴史的風致に対する認知度は十分ではなく、継続的な普及啓発を通じて、歴史的風致の維持向上を図る。 子供達への歴史教育は学校の先生からも好評を得られており、日々改善を図りながら継続的な実施により、添田町や地域への愛着を持つ将来の担い手の育成を図る。 			

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
効果	iii 歴史的風致を守り活かす担い手の活動の活性化		

① 効果の概要

- 新たに設立した英彦山門前町同好会の活動が徐々に活動の幅を広げ、年間プログラムとして活動が定着し始めた。

② 関連する取組み・計画

	他の計画・制度	計画への位置付け	年度
1	添田町第6次総合計画	あり	R3～R12
2	添田町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略	なし	R3～R7

③ 効果発現の経緯と成果

- 平成29年3月に発足した「英彦山門前町同好会」は、英彦山神宮参道を中心に活動を行う団体として、地域住民だけでなく英彦山にゆかりのある方やその子孫、更には英彦山に造詣のある方が賛同し結成された団体である。
- 団体設立直後の平成30年3月には、まちづくり団体設立支援事業の一環として英彦山神宮参道のまち歩きマップを作成したが、当該事業終了後も自主的にマップを活用し英彦山神宮参道を中心に歴史的風致を紹介するイベントの開催など、精力的な活動を続けている。
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動制約等の影響を踏まえ、団体の活動への影響もあったものの、コロナ禍においても会員加入促進に向けた活動を継続し、体験イベント等の企画実施を着実に進められてきた。
- 令和4年以降は4月から3月までの年間の活動計画が定着し、英彦山地区、特に英彦山神宮参道の活性化に向けた取組みが進められている。英彦山神宮による祭事をはじめ、英彦山門前町同好会の活動開始以前からある祭事・イベントと相まって、観光の視点からは英彦山地区における様々なコンテンツが充実し始めている。
- 活用が進められていなかった宿坊を対象に、山伏体験や宿泊体験などをイベント的に実施することを通じて、宿坊活用の機運が醸成し始めている。

英彦山門前町同好会の活動計画(R5)

月	活動内容
4月	春のおもてなし事業
5月	宿坊体験“春の光と道と宿坊”
6月	総会及び記念講演・懇親会
7月	増了坊整備作業又は玉屋谷旧泉蔵坊庭園整備作業
8月	参道光の道“天空の灯火”
9月	草木染体験会
10月	山伏体験会“ひこさん山伏の里探訪”、宿坊体験“秋の坊泊”
11月	参道マルシェ事業
12月	増了坊整備作業、定例会及び勉強会
1月	-
2月	ひこさんで冬あそび（火起こし体験等）
3月	玉屋谷旧泉蔵坊庭園整備



④ 自己評価

- 地域住民や英彦山に想いのある関係者との複数年にわたって重ねた勉強会等の開催を通じ、設立した英彦山門前町同好会は自発的な活動が進められるようになった。
- 当該団体の活動支援を継続することで、本町においても大きな成果となっているが、今後の自立・自発的な活動の継続に向けて、更なる活動の発展が必要である。

⑤ 今後の対応

- 英彦山門前町同好会等の地域の担い手の活動支援を継続しつつも、自律的・自発的な活動を行えるよう、活動への助言も含めた活動支援を行う。
- 現在検討を進めている宿坊の活用に向けた整備との連携や町や民間事業者が進める観光施策との連携を図ることを通じて、歴史的風致の維持向上を図る。

市町村名	添田町	評価対象年度	H29～R5
取組み	A 英彦山神宮参道保存整備事業、 英彦山神宮参道修景整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設の 整備・管理

① 取組み概要

- 本町が維持向上すべき複数の歴史的風致の主要な活動の場である英彦山神宮の参道を対象に、経年劣化等により損なわれていた石段や水路・の補修等による保存整備を図ることで、歴史的風致の維持向上を図る事業である。
- 平成29年度より「英彦山神宮参道保存整備事業」に着手し、総延長約885m、高低差約180mを5工区に分け、参道の上方から下方にかけて事業を推進した。
- 従前の参道において経年劣化が進む水路や石段・舗装、石塔を補修するとともに、ツツジ等の低木を除却することで、適切な保存と歩きやすい環境を整えた。
- 保存整備事業と同時に「英彦山神宮参道修景整備事業」に着手し、高さがまちまちであった手すりの修景整備とともに、石塔の補修及び町溜のある参道脇の広場空間にベンチ等を設置した。
- 参道沿いの景観を損ねていたパイプは同整備に合わせて撤去・埋設し、色彩のトーンを抑えた消火栓の塗りなおしすることで、参道沿いの豊かな景観の質の向上を図った。



水路の修理状況



町道接道部の補修状況



手すりの補修状況

② 自己評価

- 保存整備を通じて参道の環境の保存に加えて、散策者や通行者の安全性を高めることができ、住民だけでなく散策者等からも好評が得られている。
- 修景整備事業を通じて参道の荘厳な雰囲気が高めることができたと同時に、再設置した手すりにより高さが均一となったことで、利用者の安全確保が図られた。また、参道沿いの広場へのベンチの設置により、散策者の休憩箇所として活用されるようになった。

外部有識者名	梶谷敏明氏(添田町文化財専門委員会委員長)
外部評価実施日	令和6年3月11日

③ 有識者コメント

- 本事業が進んだことで、勾配がきびしい階段を登る際に手すりがよりどころとなり、階段の途中で整備されたベンチではお土産屋を眺めながら休憩ができるようになるなど、以前よりも参道を利用しやすくなった。
- 以前はむき出しに張り巡らされていたパイプが埋設されてきれいになった。手すりや消火栓の色味も配慮され、以前よりも参道の風格が高まっている。
- 英彦山の活動の主動線となる参道が今回の整備をきっかけに、参道沿いに現在も佇む宿坊の利活用が進むことで、英彦山の魅力が高まることを期待したい。

④ 今後の対応

- 英彦山参道沿いには、利活用が十分に図られていない宿坊であった建築物をはじめ、修験道終焉後に整備された宿泊施設であった建築物があり、これらの利活用を進めることで、整備された参道や英彦山詣でなどの活動と相まった歴史的風致の維持向上を図る。
- 参道において行われている祭礼、伝統芸能の継承や、英彦山を活性化させようとする団体の活動を促進させるなど、地域の活動への支援を行う。

市町村名	添田町	評価対象年度	H29～R5
取組み	B 中島家住宅保存修理事業、 中島家住宅活用整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設の 整備・管理

① 取組み概要

- 本町の重点区域設定の根拠となる「添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致」の核となる重要文化財の中島家住宅を対象に、経年劣化等により損傷や耐震性が十分ではない等への対処として、保存修理事業を図ることで、歴史的風致の維持向上を図る事業である。
- 平成26年度に中島家住宅保存活用計画を策定し、文化庁等の指導を仰ぎながら、保存修理工事の準備を進めていたところ、地盤沈下に伴う建物への大きな歪みが生じていることを踏まえ、抜本的な修理事業を実施した。
- 解体修理による痕跡調査等から後世に改築されていたことが分かり、修理事業に合わせて復原整備を実施した。
- 工事が長い期間を要することから、地域住民等の中島家住宅への理解や機運の醸成を図るため、工事期間中の現地見学会の開催や、工事の進捗状況や中島家の紹介をする「中島家だより」の発行を通じて、歴史的風致への認識の向上に努めた。
- 令和3年12月の竣工後、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、竣工式は地元住民や関係者による規模を縮小しての開催とした。
- 竣工式後、地域住民等の協力も得ることで、平時からの公開活用をはじめることができ、町内外の来訪者を受け入れることができた。また、地域住民等によるイベント企画の実施の他、小学生への出前講座を中島家住宅で開催するなど、活用に着手をし始めたところである。
- 公開活用に向けて、周辺の土地の取得・駐車場の整備、敷地内におけるトイレ棟・受付管理棟を整備した。



② 自己評価

- 保存修理事業を通じて中島家住宅の抜本的な保存対策を講じることができたとともに、後世の改築により損なわれていた中島家住宅の本来の価値を顕在化することができ、中島家住宅が有する大空間を体験できるようになり、好評を得ている。
- 活用整備事業を通じて来訪者を迎える駐車場及びトイレ棟の整備、管理運営上の受付管理棟が整備されることで、活用する上でのハード面の環境が整えられ、今後の公開活用に向けた足掛かりをつくることできた。

外部有識者名	梶谷敏明氏(添田町文化財専門委員会委員長)
外部評価実施日	令和6年3月11日

③ 有識者コメント

- 整備前の中島家住宅から当初の姿に復原されたことで、玄関から入った土間には大空間が広がり、開口部が広くなった2階の居間からは岩石城を望むことができるようになり、中島家住宅の魅力が高まっている。
- 現地で建物の管理を担っている地域の方々との何気ない会話から温かみを感じる。改修された蔵でのイベント企画や子供達への出前講座など、中島家住宅を知る機会を今後も積極的に継続してほしい。
- 岩石城を借景とする庭園が整備されることで、中島家住宅のさらなる魅力の向上に期待したい。

④ 今後の対応

- 庭園整備を進め、岩石山への借景を楽しむ中島家住宅の価値を高める整備を進める。
- 今後は、整備された中島家住宅の魅力を発信するために、指定管理者などと連携して、地域活動やイベント等の利用希望者による活動を支援していく。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
歴史的風致	1 英彦山神宮にまつわる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 II 歴史的建造物の保存・活用の推進 III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
① 歴史的風致の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 英彦山では中世に修験道が興隆したことで様々な社殿や宿坊が建ち並ぶ環境が形成され、江戸時代になると大講堂（現・奉幣殿）の再建、銅鳥居の建立などを中心に英彦山十谷に修験集落が完成した。 江戸時代、隆盛を極めた英彦山修験道の中心的な行事である松会祈年祭は、開催時期や形を変えつつも「柱松」や「御潮井採り」、「御田祭」、「神幸祭」として護持されてきた。今日、英彦山神宮下宮の祭礼として、奉幣殿から銅鳥居を結ぶ参道空間において、往時の面影を保ちながら今日も厳粛に執り行われている。 			
② 維持向上の経緯と成果			
<ul style="list-style-type: none"> 英彦山神宮にまつわる祭礼の舞台となる英彦山神宮参道について、歴史的風致形成建造物の指定を通じ、石段や石垣、石塔等の工作物の保存整備事業を実施した。これらの工作物の保存に影響を及ぼす参道沿いのツツジ等の低木や宿坊跡の山林等の除却を行い、参道の環境の保全が図られた。合わせて、参道の景観を損ねていた参道沿いに張り巡らされていたパイプや原色による周囲から突出した印象を与えていた消火栓等の設置物については、水路整備や周囲に配慮してトーンを落とした色彩を用いることで、参道の豊かな景観の維持向上を図った。 英彦山参道沿いの要所には、統一した作成したデザイン指針に基づき、案内板や誘導サインを設置し、回遊性の向上を図った。 地元住民が主体となったまちづくりの推進に向けて、先進地視察など含めた継続的な勉強会を開催し、平成29年2月に「英彦山門前町同好会」が設立された。英彦山門前町同好会は、会の設立後、英彦山の歴史文化遺産や英彦山に由来する伝統工芸や特産品の紹介をするマップの作製を足掛かりに、活動を広く周知仲間を募集するホームページの作成や体験イベントの企画・実施を重ねている。コロナ禍においても、年間10回を超えるイベントを実施することで、英彦山への来訪のきっかけ・リピーターづくりに貢献している。英彦山門前町同好会は、設立後から今日まで継続的に参道沿いの清掃活動に取り組むなど、参道の環境の維持保全に努めている。 平成27年に作成した歴史テキスト等を活用した子供達への郷土愛や地域の伝統芸能への理解を促すため、学芸員が各小学校での「出前講座」に継続的に取り組んでいる。 町広報で歴史的風致にかかわるコラム配信、歴史的風致報告会の定期開催などを通じて、歴史的風致を広く発信した。 		 <p>参道の舗装整備</p>  <p>英彦山参道周辺マップ</p>  <p>地元による英彦山神宮参道の清掃</p>	
③ 自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 英彦山神宮参道については、歴史的風致形成建造物の指定、保存整備及び修景整備を実施することにより、歴史的風致の活動の舞台の核となる環境の維持・向上が大きく図られた。 歴史的風致を保存活用する母体となる「英彦山門前町同好会」が発足され、整備された英彦山神宮参道の清掃活動を通じた環境の維持保全に加え、歴史的風致の紹介やこれを活かしたイベント企画が主体的に推進されることにより、歴史的風致の維持向上が大きく図られている。 			
④ 今後の対応			
<ul style="list-style-type: none"> 第1期計画で位置付けていたものの事業が未着手となっているスロープカー花駅について、周辺景観と調和した修景整備事業とともに、建物内での展示施設の充実化を図ることで、英彦山区域内で不足していた情報発信機能の強化を図る。 英彦山門前町同好会の活動を支援するとともに、コロナ禍等の影響もある民俗芸能等の活動継続に向けた支援を行う。 第1期計画で推進してきた案内板等整備が不足している場所への整備を推進するとともに、文化財に指定等されていない歴史的建造物の歴史的風致形成建造物の指定等を通じて、その保存活用を図る。 			

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
歴史的風致	2 添田本町地区と神幸祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 II 歴史的建造物の保存・活用の推進 III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
① 歴史的風致の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 添田本町地区の市街地の形成は、中世山城である岩石城の城下として形成されたことに端を発し、近世以降、南から北へと貫く日田道が小倉から天領日田を結んだことにより、英彦山参詣路としての役目を果たす日田道の要衝として繁栄した。 本地区で行われる神幸祭は、中島家住宅を中心とする町家建築が軒を連ねる中で老若男女関わらず参加する祭りで、稲穂に見立てた華やかなパレン飾りを靡かせて山車が巡幸する。英彦山にまつわる神幸祭の流れと祇園祭の流れを汲む祭として、今は疫病退散や町内安全を祈願している。 			
② 維持向上の経緯と成果			
<ul style="list-style-type: none"> 本歴史的風致の核である重要文化財の中島家住宅について、経年劣化による損傷や耐震強度の不足、柱の傾斜・不陸等の課題に対応するための抜本的な整備事業を通じ、後世への保存に向けた安全性等が確保された。合わせて、増改築される以前の復原整備や増築棟の撤去等により、中島家住宅が有する価値の顕在化を図ることができた。 令和3年12月の中島家住宅の保存修理事業完了後、地域住民等の協力も得ながら公開活用が図られるようになった。中島家住宅の庭園等の維持管理は、地域住民等による清掃活動により、その環境の維持保全に努めている。令和5年度には指定管理者による管理運営が図られるようになり、新しい維持管理の体制へ移行した。 中島家住宅の整備に合わせて、周辺民有地の取得、小公園整備を通じて来訪を受け止める環境が整えられた。 添田本町の歴史文化遺産やエリア内の特産品の紹介をするガイドマップ・ガイドブックの作成に加え、統一されたデザイン指針に基づき、案内板や誘導サインを設置し、回遊性の向上を図った。 平成27年に作成した歴史テキスト等も活用した子供達への郷土愛や地域の伝統芸能への理解を促すため、中島家住宅工事中は現地見学も交え、学芸員が各小学校での「出前講座」に継続的に取り組んでいる。 町広報で歴史的風致にかかわるコラム配信、歴史的風致報告会の定期開催に加え、中島家住宅の工事見学会による理解や機運の醸成、「中島家だより」の発行による歴史的風致への認識の向上に努めた。 			
			
		ガイドマップ・ブック	
			
		中島家住宅周辺の小公園整備	
			
		小学生による現地見学	
③ 自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 中島家住宅については、保存整備及び小公園整備を実施することにより、後世への保存とともに公開活用に向けた環境を整えることで、歴史的風致の維持・向上に大きく貢献した。 中島家住宅の公開活用に向けた地域住民の協力体制により、清掃活動を通じた環境の維持保全に加え、中島家住宅でのイベント企画が推進され、ガイドマップ・ブックの配布、公共サインの整備等が進むことで、歴史的風致の維持向上が図られている。 			
④ 今後の対応			
<ul style="list-style-type: none"> 第1期計画で位置付けていたものの事業が未着手となっている中島家住宅の庭園整備を推進することにより、岩石山への借景を楽しめる中島家住宅の価値の向上を図る。 令和5年度より始まった指定管理者による中島家住宅の運用とともに、地域住民との連携による中島家住宅の維持管理や活用を支援する。合わせて、コロナ禍等の影響もある神幸祭の活動継続に向けた支援を行う。 第1期計画で推進してきた案内板等整備が不足している場所への整備を推進するとともに、文化財に指定等されていない歴史的建造物の歴史的風致形成建造物の指定等を通じて、その保存活用を図る。 			

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
歴史的風致	3 英彦山水系流域と伝統芸能にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
① 歴史的風致の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 天水分の山「英彦山」は、彦山川や今川の水源地であり、水源地から流れ出る水は沢となり、合流して川となり、最終的に彦山川や今川として、英彦山の麓の集落に流れ出ている。この水は古来より下流地域で営む農業用水として使われてきており、お米をはじめとして様々な野菜や花卉等の豊かな作物が作られている。 農耕の予祝祭である神幸祭は、天水分の山「英彦山」から始まり、水の流れとともに下流地域に広がるように、時期をずらしながら各集落で神幸祭が行われる。この神幸祭においては、各集落において大切に守られてきた神社で様々な民俗芸能が奉納されている。自然と共生する農耕信仰を今も感じ取ることができる。 			
② 維持向上の経緯と成果			
<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能の活動で使用する獅子舞の衣装の購入など支援することで、活動の継続を支援した。 英彦山参道沿いの要所には、統一されたデザイン指針に基づき、案内板や誘導サインを設置し、回遊性の向上を図った。 平成27年に作成した歴史テキスト等を活用した子供達への郷土愛や地域の伝統芸能への理解を促すため、学芸員が各小学校での「出前講座」に継続的に取り組んでいる。 町広報で歴史的風致にかかわるコラム配信、歴史的風致報告会の定期開催などを通じて、歴史的風致を広く発信した。 			
			
		作成された獅子舞衣装	
			
		サイン整備	
③ 自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能の活動を支援することにより、活動の継続・後継者の育成を図った。 公共サインの整備が進むことで、歴史的風致の認知の向上が図られている。 一方で、人口減少や高齢化の進展などによる活動継続への影響が強く、担い手の確保や後継者の育成が長年課題となっており対応が必要である。 			
④ 今後の対応			
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍等の影響も踏まえつつ、活動継続に向けた課題への対応に向けて、講習会の開催といった担い手確保や後継者育成に向けた支援を行う。 			

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
歴史的風致	4 彦山踊りにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 II 歴史的建造物の保存・活用の推進 III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
① 歴史的風致の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 平成2年に添田町無形民俗文化財に指定されている「彦山踊り」の起源は、元弘3(1333)年に長助法親王が英彦山座主として下向した時など諸説あるが、昭和初期までは、下谷や西谷などの各組の講終わりや盆踊りとして踊られていた。現在でも、英彦山神宮の祖霊祭後や各イベントで踊られている。 質実剛健な山伏社会の深山に伝えられたで優美な「みやこ情緒」を感じられる踊りが、雄大な自然を背景に、今日まで大切に継承している。 			
② 維持向上の経緯と成果			
<ul style="list-style-type: none"> 彦山踊りの舞台となる「勢溜」・「町溜」のある英彦山神宮参道について、歴史的風致形成建造物の指定を通じ、石段や石垣、石塔等の工作物の保存整備事業を実施した。これにより、参道の豊かな景観の維持向上を図った。合わせて、町溜の接する土地に休憩等ができるベンチを整備することで、来訪者をもてなす空間が確保できた。 英彦山参道沿いの要所には、統一されたデザイン指針に基づき、案内板や誘導サインを設置し、回遊性の向上を図った。 平成27年に作成した歴史テキスト等を活用した子供達への郷土愛や地域の伝統芸能への理解を促すため、学芸員が各小学校での「出前講座」に継続的に取り組んでいる。 町広報で歴史的風致にかかわるコラム配信、歴史的風致報告会の定期開催などを通じて、歴史的風致を広く発信した。 			
			
		サイン整備	
			
		町溜等の保存整備	
③ 自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 英彦山神宮参道については、歴史的風致形成建造物の指定、保存整備及び修景整備を実施することにより、歴史的風致の活動の舞台の核となる環境の維持・向上が大きく図られた。 公共サインの整備やベンチ等による休憩場所の整備等が進むことで、歴史的風致の認知の向上が図られている。 一方で、人口減少や高齢化の進展、彦山踊り保存会への加入条件が限定されていることなどは、活動継続への影響が強く、担い手の確保や後継者の育成が長年課題となっており対応が必要である。 			
④ 今後の対応			
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍等の影響も踏まえつつ、解消されていない課題への対応に向けて、彦山踊り講習会の開催といった担い手確保に向け、当該保存会と協議し後継者育成に向けた支援を行う。 			

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
歴史的風致	5 英彦山詣でと英彦山権現講にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 II 歴史的建造物の保存・活用の推進 III 歴史的建造物を取り巻く環境の保全 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
① 歴史的風致の概要			
<ul style="list-style-type: none"> 英彦山権現講は、毎年九州の各地域にある権現講の代表者を決め、英彦山神宮上宮に参詣する英彦山詣でが脈々と受け継がれている。 英彦山権現講の参詣は、英彦山参詣路を通して英彦山神宮を参拝するもので、時代の移ろいの中で参詣する様相は変化しているものの、英彦山を参詣する光景から英彦山信仰を感じ取ることができる。 			
② 維持向上の経緯と成果			
<ul style="list-style-type: none"> 英彦山詣でのとおり道である英彦山神宮参道について、歴史的風致形成建造物の指定を通じ、石段や石垣、石塔等の工作物の保存整備事業を実施した。これらの工作物の保存に影響を及ぼす参道沿いのツツジ等の低木や宿坊跡の山林等の除却を行い、参道の環境の保全が図られた。合わせて、参道の景観を損ねていた参道沿いに張り巡らされていたパイプや原色による周囲から突出した印象を与えていた消火栓等の設置物については、水路整備や周囲に配慮してトーンを落とした色彩を用いることで、参道の厳かな景観の維持向上を図った。 経年劣化と白蟻で一部の柱が折損していた県指定の民俗文化財「財蔵坊」について、柱の取り替えと併せ補強壁設置等の補修工事を実施し、後世への継承が図られた。 英彦山参道沿いの要所には、統一されたデザイン指針に基づき、案内板や誘導サインを設置し、回遊性の向上を図った。 地元住民が主体となったまちづくりの推進に向けて、先進地視察など含めた継続的な勉強会を開催し、平成29年2月に「英彦山門前町同好会」が設立された。英彦山門前同好会は、会の設立後、英彦山の歴史文化遺産や英彦山に由来する伝統工芸や特産品の紹介をするマップの作製を足掛かりに、活動を広く周知し仲間を募集するホームページの作成や体験イベントの企画・実施を重ねている。コロナ禍においても、年間10回を超えるイベントを実施することで、英彦山への来訪のきっかけ・リピーターづくりに貢献している。 平成27年に作成した歴史テキスト等を活用した子供達への郷土愛や地域の伝統芸能への理解を促すため、学芸員が各小学校での「出前講座」に継続的に取り組んでいる。 町広報で歴史的風致にかかわるコラム配信、歴史的風致報告会の定期開催などを通じて、歴史的風致を広く発信した。 			
		宿坊の宿泊体験	
			
		財蔵坊の補修工事	
			
		サイン整備	
③ 自己評価			
<ul style="list-style-type: none"> 英彦山神宮参道や財蔵坊の保存整備等を実施することにより、歴史的風致の活動の舞台の核となる環境の維持・向上が大きく図られた。 歴史的風致を保存活用する母体となる「英彦山門前町同好会」が発足され、整備された英彦山神宮参道の清掃活動を通じた環境の維持保全に加え、歴史的風致の紹介や宿坊を活用したイベント企画が主体的に推進されることにより、歴史的風致の維持向上が大きく図られている。 			
④ 今後の対応			
<ul style="list-style-type: none"> 第1期計画で位置付けていたものの事業が未着手となっているスロープカー花駅について、周辺景観と調和した修景整備事業とともに、建物内での展示施設の充実化を図ることで、英彦山区域内で不足していた情報発信機能の強化を図る。 英彦山門前町同好会の活動を支援するなど、宿坊の活用の促進を図る。 第1期計画で推進してきた案内板等整備が不足している場所への整備を推進するとともに、文化財に指定等されていない歴史的建造物の歴史的風致形成建造物の指定等を通じて、その保存活用を図る。 			

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
歴史的風致	6 高住神社にまつわる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

- ・ 英彦山では古来より春の松会、秋の豊前坊大祭が行われていた。春は霊仙寺境内で万物生成を予祝して松会を行い、秋には豊前坊で万物成就を祝って神幸祭を行っており、その後全ての神々に感謝し、採燈護摩供を行っている。
- ・ 豊前坊は、時代の流れの中で高住神社と名を変えたが、今も英彦山信仰の東の玄関としてその役割を果たし、牛馬信仰の中心地として農村部から多くの参詣者を集めている。

② 維持向上の経緯と成果

- ・ 民俗芸能の活動で使用する太鼓の修理等を支援することで、活動の継続を支援した。
- ・ 英彦山参道沿いの要所には、統一されたデザイン指針に基づき、案内板や誘導サインを設置し、回遊性の向上を図った。
- ・ 平成27年に作成した歴史テキスト等を活用した子供達への郷土愛や地域の伝統芸能への理解を促すため、学芸員が各小学校での「出前講座」に継続的に取り組んでいる。
- ・ 町広報で歴史的風致にかかわるコラム配信、歴史的風致報告会の定期開催などを通じて、歴史的風致を広く発信した。



太鼓修理事業



サイン整備

③ 自己評価

- ・ 公共サインの整備やベンチ等による休憩場所の整備等が進むことで、歴史的風致の認知の向上が図られている。
- ・ 一方で、人口減少や高齢化の進展などによる活動継続への影響が強く、担い手の確保や後継者の育成が長年課題となっており対応が必要である。

④ 今後の対応

- ・ コロナ禍等の影響も踏まえつつ、活動継続に向けた課題への対応に向けて、講習会の開催といった担い手確保や後継者育成に向けた支援を行う。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

- 本町では、歴史的風致維持向上計画の策定時に組織した「添田町歴史的風致維持向上計画策定庁内会議」を母体に、歴史的風致の維持向上に向けた検討を深めてきた。
- 計画の策定時より、教育委員会にあった文化財係を首長部局へ移行し、文化財の保存・活用だけでなく、それらを活用したまちづくりや歴史的風致の維持向上の取組みを推進していくために、文化財部局とまちづくり部局が一体となった体制の見直しが行われた。これにより、関係各課との連絡体制も円滑になり、必要に応じた協議の場を容易に設けるようになるなど、取組みを推進してきた。
- 認定直後の平成27年度からは、観光担当係を同一の課に位置付けたことで、より密接な連携を通じて推進力を持った事業推進が可能となった。令和5年度より文化財係を商工観光振興課が所管課とすることで、観光施策と連携した歴史的風致の維持向上に関する取組みが可能となった。



② 庁内の意見・評価

【庁内推進会議の主な意見】

- 観光部局と文化財係が一つの課で取組みを推進する体制が整えられたことで、文化財等を活用した観光施策の情報共有や施策の検討を行いやすくなっている。
- 関係各課による連絡体制を維持したことで、第1期計画で位置付けた事業は概ね計画に沿って推進できている。
- 平成29年の九州北部豪雨などによる被災やコロナ禍の影響、地域住民等の合意形成が至らなかったことなどにより、一部予定どおりの事業推進を行うことが難しかった。

上記の意見等を踏まえ、今後も文化財等を活用した施策を展開しやすい体制を維持し、必要に応じて再編していく。

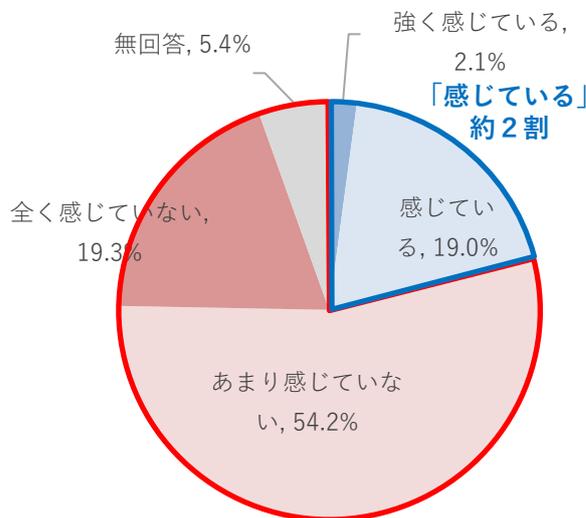
市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
------	-----	--------	--------

① 住民意見

【町民へのアンケート調査の結果概要】

- ・ 歴史的風致維持向上計画の町民の認知度は、約5割が「認知している」一方で、約5割は「認定されていることを知らない」という結果であった。
- ・ 歴史的風致維持向上計画の認定後10年間における町の歴史的な風情や情緒の向上について、7割強は感じていないと回答し、感じていると回答したのは約2割であった。感じていると回答した半数以上は、中島家住宅の保存修理工事の竣工や案内板等の整備を挙げている。
- ・ 7割強は地域の伝統や文化を後世に継承していくべきという結果であり、そのための活動に取り組む意向を約7割が示した。

Q 『歴史的風致維持向上計画』を策定してから10年の間で、町の歴史的な風情や情緒が向上したと感じますか。



「感じていない」7割強

※「あまり感じていない」、「全く感じていない」の合計

調査概要

対象者：18歳以上の町民1,000人(無作為抽出)

実施期間：令和4年10月中旬～11月30日

回答者数：332人

【民俗芸能団体へのヒアリング調査の結果概要】

- ・ コロナ禍により練習ができていない。高齢化も進み、引継ぎできる環境を整えられてない。
- ・ 担い手が少なく、現在は町外在住の出身者の参加も得ながら活動を続けている。
- ・ 地域外からの募集を団体独自で行っており、練習回数を増やしたり、初心者でも対応できるような配慮を進めた。これにより、参加者を得ることができ始めた。今後は添田小学校や保育園にも相談しながら、参加者を募ることを取り組みたい。

② 協議会におけるコメント

- ・ 第1期計画に位置づけた事業の中には、未実施の事業や令和5年度以降も必要となる事業があると考えられるため、第2期計画においても事業の実施を検討すべきである。
- ・ 第1期計画で未実施の事業対象である旧英彦山小学校は、英彦山スロープカー駅舎として利用されているが、白く大きく覆われている屋根は英彦山に馴染んでいない。
- ・ 英彦山神宮上宮修復について、実施設計にあたり、痕跡調査、破損調査等の十分な現地調査を行い、文化財の価値を損なわないよう当初材の保存(再利用)を心がけてほしい。
- ・ 英彦山庭園として価値付けられた「旧亀石坊庭園」について、禅庭の要素として重要な「鯉魚石」に、少量でよいので水を流すべき。文化財として提示する場合は滝としての在り様を表すことが重要になる。
- ・ 保存修理工事を終え注目されている中島家住宅や、中村家住宅等の継承を支えてきた地域の様子等の説明があると更に理解が深まるであろう。
- ・ 児童・生徒に対する意識向上推進事業について、出前授業は一つの成果ではあるが、イベント的に行っているのであれば継続されないことが危惧される。「郷土を愛する子どもの育成」が学校教育の重点目標の一つとして挙げられているので、各学校の年間指導計画に位置付けられるように学校・関係課等との連携を密にしてほしい。また、テキストのデジタル化に対応したり、映像を提供したりするなど、視覚的な教材を提供することは重要である。担い手の育成は重要であり、第2期計画で積極的に進めてほしい。
- ・ 町の中で計画通りに進めることも重要であるが、住民の方々と協働での取り組みが醸成されているかを顧みることが必要である。住民の方々と協働の取り組み、理解が得られないまま事業を遂行してしまうと、今後の事業減速もあり得る。住民の方が疲弊しないような事業コントロールと配慮をお願いしたい。
- ・ 民俗芸能の新しい担い手を確保して育成することは時間を要することから、映像などを記録し、仮に途絶えても後々復活できるような環境を整えておくことも重要である。アーカイブ化を進めてほしい。
- ・ 昨今災害が多発していることから、今後起こりうる災害から文化財を守り、被災しても復旧できるような環境を整えるなど、防災の視点からの取り組みを進めてほしい。

市町村名	添田町	評価対象年度	H26～R5
① 全体の課題			
<ul style="list-style-type: none"> • 第1期計画の課題として、地域と連携した歴史まちづくりを展開してきたものの、新型コロナウイルス感染拡大等の影響もあり、その取組みに課題が残ることから、現計画における歴史的風致及び重点区域を基本に、継続して事業を展開する必要がある。 • コロナ禍を経る中で神幸祭や獅子楽といった伝統芸能は中止に追い込まれ、人口減少と高齢化が顕著な本町では、活動継続の機運が低下しつつある。 • 重要文化財である中島家住宅は、主屋や蔵の保存修理事業により公開活用が可能となったが、岩石山を借景する庭園は植栽の繁茂などにより本来の姿が損なわれた状態にある。 • 英彦山門前町にある宿坊や旅館建築、日田道沿いの歴史的建造物は年々減少し、今日残されている建造物も損傷が進行することで、その歴史的風致が失われつつある。 • 英彦山門前の参道沿いは、参道の修景整備事業により趣が感じられるようになった一方で、参道中腹に位置し、他建造物と調和していないスロープカー花駅や参道沿いの近代的な建造物などにより景観が損なわれつつある。 • 第1期計画において老朽化した公共サインの再整備を進めているものの、未設置の歴史的建造物も少なくなく、十分とはいえない状況にある。また、多くの人を訪れる場所において観光マップ等の情報発信、公開イベント等により、歴史的風致の周知・啓発を図ってきたが、若年層をはじめ十分とはいえない状況にある。 			
② 今後の対応			
<ul style="list-style-type: none"> • 現計画の取組み成果や課題を踏まえ、引き続き、第2期計画を策定するとともに、地域と一体となり、更なる歴史まちづくりを展開していく。 • コロナ禍終息後の民俗芸能の再開に向けて、後継者育成などの支援と併せて、発表の機会創出などソフト事業を推進していく。 • 重要文化財「中島家住宅」活用のための敷地整備、添田町の歴史を伝える情報発信施設の整備など、添田本町等区域及び英彦山区域における拠点施設の環境整備の推進していく。 • 宿坊や宿泊施設、町屋等の歴史的建造物は、歴史的風致形成建造物の指定とともに文化財の指定を検討し、所有者等の修理への支援策により負担の軽減を図ることなどで、今後の保存・活用を推進していく。 • 第1期計画で未実施であったスロープカー花駅の修景整備や景観計画の運用を通じて、良好な景観形成を推進していく。 • 継続的に公共サインの整備、スロープカー花駅等の人が集まる場での情報発信、観光ガイドの会等との連携により、歴史的風致の認識を高める取り組みを推進していく。 • 歴史的古文書保存活用事業といった第1期計画における未実施事業の事業を推進していく。 			